



「面白がる」心で、未来を切り拓く ～ 2学期 校長式辞から（一部省略）～

活気に満ちた校舎に、皆さんの日焼けした顔と弾む声が戻ってきました。一か月ぶりの再会ですね。今年の夏は、猛暑や豪雨災害が各地で発生し、当たり前前の日常がどれほど尊いものかを改めて考えさせられました。だからこそ、こうして皆さんとここに集い、共に学び、生活できることに感謝の気持ちでいっぱいです。30日間の夏休み、部活動に汗を流したり、吹奏楽の練習に励んだり、花笠パレードで力いっぱい踊ったり、一人ひとりにとって忘れられない大切な思い出ができたことでしょう。3年生は自分の進路と真剣に向き合い、努力を重ねた貴重な時間だったと思います。

さて、今日から始まる2学期は、1年の中で最も長く、最も成長を実感できる大切な時期です。来月には新人戦、運動会、合唱コンクールなど、大きな行事が目白押しです。これらの行事は、私たちを大きく成長させてくれる、かけがえのない機会となるでしょう。そんな2学期を迎えるにあたり、皆さんに期待したいことがあります。それは、「面白がる」心です。皆さんは、絵本作家の鈴木のりたけさんをご存知ですか。彼の作品に『大ピンチずかん』という絵本があります。これは、誰もが経験する日常の小さな失敗、例えばラーメンのレンゲが沈んだり、パックジュースのストローが穴にめり込んだりといった「ピンチ」を描いたものです。読んでみると、思わず「あるある！」と笑ってしまいます。鈴木さんは新聞の記事で、「大人になっても悩みは続くけど、『面白がる』と世界は広がると思います。急ぐ必要はないから、ぜひ幅広い経験をしてほしい。他人と違う経験をすればするほど、将来光って自分だけのオンリーワンのものになる。」と語っています。この言葉に私は深く心を動かされました。私たちは失敗や挫折を恐れがちですが、鈴木さんは、それらを「ちょっとしたピンチ」と捉え、面白がることの大切さを教えてくれています。物事の捉え方や考え方一つで、見える世界は大きく変わります。苦手な勉強も、どうすれば楽しくなるか工夫してみる。大変な行事の準備も、仲間と協力するプロセスを「面白がる」ことで、達成感は何倍にも膨らみます。

「面白がる」心は、私たちに新しい視点と挑戦する勇気をくれます。失敗を恐れず、どんな小さなことでも「これは面白そうだ」と感じてやってみる。その経験の一つひとつが、将来の可能性を広げ、自分だけの「オンリーワン」の武器となるのです。さあ、80日間の2学期を「明るく、元気に、前向きに」大いに躍進する学期にしましょう。

～ 始業式での各学年代表のあいさつ ～

勉強では、わからないことをそのままにせず、わかったつもりになったりしないで集中して授業に臨みたい。卓球では、ホールに飾られた賞状を見て、私も入賞したいと強く思うようになりました。日々の練習を大切に、目標に向かって頑張りたいです。行事では、小学校で当日だけでなくそれまでの準備がいかに大切かを学びました。勉強や部活動との両立は大変ですが、その分達成感も大きいはずなので、しっかりと準備を進め成功させたいです。

（1年 丹波 或）

一学期の悔しい思いを二学期の生活に生かしたいと思います。

二学期からは、2年生が主体となって動く機会が多くなります。今まで以上に先輩として動く機会が多くなります。自覚と責任を持ち生徒会活動に意欲的に取り組み、学校生活でお手本となるような行動をしていきたいです。

そして、前の日よりも何か少しでも成長したと思えるような毎日を送っていきます。

（2年 芦名 遥）

受験勉強や運動会、合唱コンクールなどの行事があることで、仲間とぶつかったり、三年生全体がピリピリした雰囲気になったりすることもあるかもしれません。そんな時こそ、私は積極的に関わり、コミュニケーションをとっていききたいと思います。私たちは卒業後、別々の進路に進みます。だからこそ、みんなと過ごせる今この時を、かけがえのない最高の宝物として、「ベストメモリー」を作りたいと思います。

（3年 新関陸天）

夏休みに開催された上位大会の結果です。

それぞれが自分の力を発揮して果敢に挑戦しました。応援ありがとうございました。

◇ 吹奏楽コンクール山形県大会出場 奏 CLUB（山形七中） 銀賞

◇ 東北大会出場 ・男子バドミントンシングルス 西塔剣聖さん 2回戦惜敗

・陸上男子 砲丸投 情野都登さん 予選惜敗

・ソフトテニス 井上遥斗 団体3位 個人戦 2回戦惜敗（地域クラブで出場）

◇ 全国大会出場 ・水泳 男子 200m 平泳ぎ 高橋颯さん 予選惜敗

私たちの地域の地域の未来を考えました



7月31日出羽コミセンにて出羽地区の未来を語る会が開催され、山形七中からは6名が参加し、活発な意見交換が行われました。休憩所に日雨よけが欲しい、危険箇所カーブミラーが欲しい、遊べる場を作って欲しいなどの要望や、紅花をはじめとする美しい出羽地区を守っていききたい等の意見が出されました。

【参加生徒】3年：長瀬美彩姫さん 伊豆田紬さん

2年：高橋凜琉さん 鈴木陽菜花さん 1年：伊豆田杏さん 若木光平さん

地域からの支援に君たちはどう応えますか

山形七中の教育活動は、出羽地区、大郷地区、明治地区の地域の方々からの、温かい支援によって支えられています。毎年、沢山のご支援をいただき心から感謝しています。これらの支援は、皆さんが毎日使っている様々なものに使われています。例えば、液晶テレビ、合唱コンクールの会場使用料、キーボード、図書館の本棚、楽器の修理、教室等のカーテン、式典等で使うパイプ椅子など、皆さんの学校生活をより豊かにするための大切な財産となっています。

知っていましたか？ これらの支援金は、山形七中学区に住む全ての家庭からいただいたものです。地域の方々は、皆さんの成長を心から願って、期待を込めて支援してくださっています。では、私たちはこの温かい支援にどのように応えていくべきでしょうか。

1. 物を大切に使う

まず第一に、いただいた備品や教材を大切に使うことです。これは当たり前のことですが、物を丁寧に扱うことは、支援してくださった方々への感謝の気持ちを形にする一番の行動です。

2. 日々の活動に真剣に取り組む

勉強や部活動に一所懸命取り組むことです。皆さんが目標に向かって努力する姿は、地域の方々にとって何よりの喜びであり、支援してよかったと感じてもらえるはずです。

3. 地域の一員としての行動する

最も大切なこと、それは、地域の一員として何ができるかを考え行動することです。例えば、地域の方とすれ違うときには「こんにちは！」と元気よくあいさつをする。これだけでも、地域との繋がりを強め、温かい気持ちを広げることができます。地域の文化祭に参加したり、ボランティアとして協力したりするのもよいでしょう。皆さんが地域の方々への感謝の気持ちを忘れずに、日々を過ごすことで山形七中は地域全体で支えられ、より良い学校に成長していくことになります。

雨にも負けず、花笠パレードで輝く！（2学年行事）

先日、第2学年が山形花笠パレードに参加しました。あいにくの大雨でしたが、七中が踊る間だけは奇跡的に雨がやみ、生徒たちの熱意が空に届いたようでした。沿道の皆さまからの温かいご声援に、生徒たちは生き生きと応え、練習の成果を存分に発揮しました。この素晴らしい経験は、保護者の皆さまのご尽力無くしては為し得ませんでした。心より感謝申し上げます。下はその時の様子です。

